

海業の事業計画骨子（案）【和歌山県太地町 太地町漁港】①

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

- 紀伊半島の東側、本州最南端の潮の岬から北東へ20kmの町で、**古式捕鯨発祥の地**である
- 沿岸小型捕鯨と国内唯一の**鯨類追い込み網漁**を実施している。その他大型定置網漁、刺網漁、小型船漁業などを展開
- 町の基幹産業である水産業を核に、**固有の地域資源であるくじら**を活用した学術研究及び交流観光等に取り組み「森浦湾くじらの海計画」を遂行しているものの、地域の過疎高齢化に歯止めがかからない

【海業の現状と課題】

- 太地町立くじら博物館との連携、くじら浜海水浴場、森浦湾くじらの海におけるシーカヤック、道の駅たいじにおけるくじら食や鮮魚・水産加工品の販売等、さまざまな取り組みがある
- 近隣の宿泊施設等と連携した高品質な旅行商品の開発のポテンシャルがある
- 漁協直営のシーカヤックは、コロナ以降利用者が半減しており、効率性の面では教育旅行等の利用を増やすことが求められている
- 地理的条件不利地であり、新たなアクティビティの創出による集客力の拡大が求められている



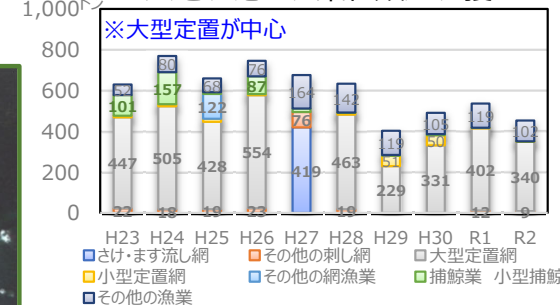
■太地町海業計画



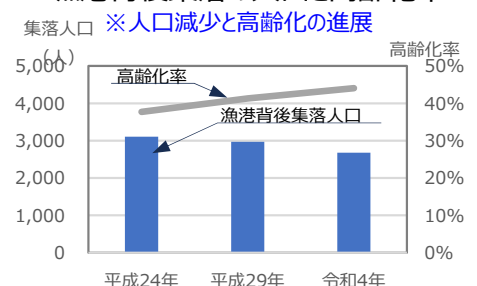
森浦湾シーカヤック体験



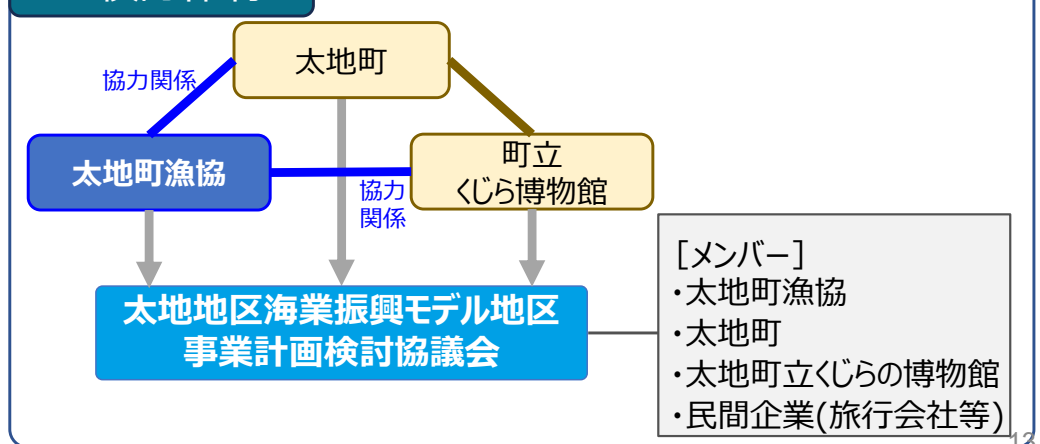
■太地漁港の漁業種類別漁獲量



■漁港背後集落の人口と高齢化率



2. 検討体制



海業の事業計画骨子（案）【和歌山県太地町 太地町漁港】②

3. 海業の方針

くじらの博物館、くじら浜海水浴場、森浦湾くじらの海等の既存の取組を踏まえ、くじらの町太地町の魅力の増大・発信と集客力の拡大を目指す。

【取組】

- 海釣りデッキの整備による森浦湾くじらの海に新たなアクティビティを創出し、エリアの一層の活用と魅力の増大を図る。
- 休漁期の捕鯨船を活用したクルーズ事業や定置網見学といった太地町の漁業に根差した固有のアクティビティの創出による、地域の魅力の増大と強い誘客性を図ることで、漁業者の所得向上を目指す。
- 博物館や海業体験を組み合わせた高品質な旅行商品の開発による集客力の拡大。
- 上記取組の支援（準備岸壁（-5m）の一部の使用による発着場整備、漁具倉庫（木造）の一部を海業案内事務所、事前のレクチャー、休憩施設として活用）

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

①海釣りデッキ（漁協）

【期待される効果】

- 観光客の滞在時間の増加
- 森浦湾くじらの海における観光メニューの増大

②捕鯨船クルーズ事業の検討（漁協）

※シーズンオフの捕鯨船の活用

③定置網見学

（発着場整備：太地町、運営：漁協）

【期待される効果】

- 観光客の滞在時間の増加
- 観光地としての魅力の増大
- 地域の雇用の創出

④近隣地区宿泊施設との連携（民間）

※太地の魅力・地域資源を活用した、博物館や海業体験と連携した高品質な旅行商品を開発

【期待される効果】

- 観光地としての魅力の増大
- 賑わいの創出
- 漁業者の所得の向上

